

2 補助事業計画書

事業者名	社会福祉法人 豊寿会		
事業所名	特別養護老人ホーム 紅梅荘 【事業所番号：0672500360(多床室)・0672500865(ユニット型)】		
介護サービスの種類	介護福祉施設サービス	定員数	90人
介護ロボットの製品名 通信環境整備の製品名 導入時期及び台数	[製品名] 電動昇降フルリクライニングキャリ-FC-320 [導入時期] 令和5年12月25日 [導入台数] 2台		
購入又はリースの別 ※該当する方に○を記入	○購入・リース(契約期間 年 月～ 年月)		
事業概要(現在の問題点・導入台数の妥当性・職員との導入意義の共有)	<p>特殊浴槽機の入浴利用者50名は、居室のベッドから「車イス」、そして入浴ストレッチャーに移乗し入浴を行っており、入浴後に居室のベッドに戻るまでに計4回の「車イス」移乗があり、職員の負担軽減と腰痛予防のため、令和4年度に県介護ロボット導入支援事業の補助により「電動昇降型車イス」2台を導入した。</p> <p>その効果が確認できたので、今回、「電動昇降型車イス」2台を追加導入して、当初の目標を達成したい。</p>		
機器を導入することにより達成する目標(機器導入の翌年から3年間、年度毎)	<p>○追加導入後(翌年)1年目 職員への聞き取り調査を実施して、追加導入後の入浴移乗に係る職員の負担を、5割軽減する。</p> <p>○2年目 職員への聞き取り調査を実施して、追加導入後の入浴移乗に係る職員の負担を8割以上軽減する。</p> <p>○3年目 職員への聞き取り調査を実施して、追加導入後の入浴移乗に係る職員の負担をゼロにする。</p>		

期待される効果等	<p>○追加導入後(翌年)1年目 2人で行っていた移乗介助を1人で行い、業務の効率化が図られ、同時に負担軽減が期待される。</p> <p>○2年目 さらに業務の効率化が図られ、負担軽減が期待される。</p> <p>○3年目 業務の効率化と負担軽減が図られたことが、介護職員の離職防止につながり、働きやすい職場環境づくりに資することができる。</p>
効果検証の方法(効果に関するデータを客観的な評価指標に基づいて記録)	移乗介助がこれまでの2人から1人で行い、業務の効率化が図られたことが確認でき、介助者の負担軽減効果と満足度、入浴時の活用状況が確認できる使用状況日誌を作成する。

3 事業・導入スケジュール

期間(予定)	内容	経費概要	備考
5年7月10日 ～5年7月20日	令和4年度の導入効果と令和5年度追加導入のことに ついて、機器を使用する介護職員と、移乗動作に係るリハビリ担 当職員の意見を聴取する。		
5年7月25日 ～5年7月31日	令和4年度の導入効果と令和5年度追加導入計画のことに ついて、介護職員代表者と入浴班職員5名によるチームで、 検討する。		
5年8月18日 ～5年8月18日	本事業費補助金に係る事前協議書を提出する。		
5年10月10日 ～5年10月10日	本事業費補助金に係る内示を受理する。		
5年10月17日 ～5年10月17日	本事業費補助金に申請書を提出する。		
5年11月20日 ～5年11月20日	本事業費補助金に係る交付決定を受理し、事業を実施す る。		
5年12月25日 ～5年12月25日	機器を導入する。		
6年1月10日 ～6年1月20日	機器使用について職員の習熟と令和4年度に整備したマニ ュアルの見直し整備を行う。		

6年1月15日 ～6年1月15日	実績報告書を提出する。	
6年3月31日 ～8年3月31日	3年目まで、効果検証を実施し、導入による移乗介助方法等の見直しを検討する。	
6年4月1日 ～8年4月31日	3年目まで、効果検証の結果に基づいた業務改善の取組を検討し、導入機器の状況報告書及び事業実施状況調書を提出する。	

※スケジュール作成の留意点について

スケジュールにおける導入・活用・効果検証にあたり、実施方法、体制づくり、業務の見直し等について、以下の点を反映させること

ア業務の状況分析・問題点の洗い出し、イ機種選定・導入計画の検討、ウ導入担当者・チーム体制整備（導入・活用・効果検証の各担当者）、エ実際に機器を使用する者（介護職員等）の意見聴取、オ機器導入時期、カ職員の習熟及び教育・研修計画（マニュアル整備等）、キ導入によるケア方法の見直し予定、ク効果検証の実施、ケ効果検証の結果に基づいた業務改善の取組検討（実績報告から3年目までの取組）

## 2 補助事業計画書

事業者名	有限会社 スダ		
事業所名	有料老人ホーム 【事業所番号：0671300341】		
介護サービスの種類	特定施設入居者生活介護	定員数	29
介護ロボットの製品名 通信環境整備の製品名 導入時期及び台数	[製品名] 電動昇降リクライニングキャリアFC-32		
	[導入時期] 令和 5年12月1日 [導入台数] 1台		
購入又はリースの別 ※該当する方に○を記入	<input checked="" type="radio"/> 購入・リース (契約期間 年 月～ 年 月)		
事業概要 (現在の問題点・導入台数の妥当性・職員との導入意義の共有)	女性介護員が多い施設では、移乗介護の負担が大きく電動昇降機を導入することで女性の体の負担を軽減するため		
機器を導入することにより達成する目標 (機器導入の翌年から3年間、年度毎)	○導入後 (翌年) 1年目 電動で昇降するので持ち上げない介護が可能になり身体的負担を軽減できる。 ○2年目 移乗介護をする時は腰をかかめなければならないので腰負担がかかる。職業病の防止 ○3年目 難しい作業を誰でも簡単にできるようになる。		
期待される効果等	○導入後 (翌年) 1年目 腰痛予防 ○2年目 介護職員の負担を軽減し、離職率を下げる。 ○3年目 作業の効率化		
効果検証の方法 (効果に関するデータを客観的な評価指標に基づいて記録)	介護時間の短縮、直接・間接負担の軽減効果、介護従事者 (利用者) の満足度、機器導入の利用状況について職員アンケートの実施		

## 3 事業・導入スケジュール

期間 (予定)	内容	経費概要	備考
令和5年12月1日	介護機器導入予定	補助を引いて 200,500円	
令和5年12月1日	導入によるケアの見直し 予定機器の取り扱いの説明		
令和5年12月1日	導入担当チーム体制の整備 業務状況の分析		
令和6年1月1日	効果検証の実施		

※スケジュール作成の留意点について

スケジュールにおける導入・活用・効果検証にあたり、実施方法、体制づくり、業務の見直し等について、以下の点を反映させること

ア業務の状況分析・問題点の洗い出し、イ機種選定・導入計画の検討、ウ導入担当者・チーム体制整備 (導入・活用・効果検証の各担当者)、エ実際に機器を使用する者 (介護職員等) の意見聴取、オ機器導入時期、カ職員の習熟及び教育・研修計画 (マニュアル整備等)、キ導入によるケア方法の見直し予定、ク効果検証の実施、ケ効果検証の結果に基づいた業務改善の取組検討 (実績報告から3年目までの取組)



2 補助事業計画書

事業者名	大和メディカル株式会社		
事業所名	デイサービス樫の木 【事業所番号：0670103100】		
介護サービスの種類	通所介護	定員数	30名
介護ロボットの製品名 通信環境整備の製品名 導入時期及び台数	[製品名] 電動昇降フルリクライニングキャリア FC-320 (ピジョンテヒラ株式会社) [導入時期] 令和5年12月1日 [導入台数] 1台		
購入又はリースの別 ※該当する方に○を記入	○購入・リース(契約期間 年 月～ 年 月)		
事業概要(現在の課題点・導入台数の妥当性・職員との導入意義の共有)	要介護度が高いいわゆる寝たきりの方、加えて大柄で体重のある方の移乗介助においては、介助者の技術を以てしてもその身体的負担は大きい。ベッド・車椅子間の移乗介助はもちろん入浴介助時にはベッドと浴室ストレッチャー間を複数で抱きかかえて移乗する現状から、腰痛を訴える者や、ある特定の職員に限定せざるを得ない現在の状況がある。 電動昇降フルリクライニングキャリア FC-320は座面(背面)を電動で750mmの高さまで上昇させられ、スライディングボード(シート)を併用活用することで、ベッド・ストレッチャー間の移乗が従来の介助方法よりも負担少なく行うことが出来る。 導入活用することにより、介助者の身体面・精神面での負担軽減はもちろんのこと、研修・指導を重ね多くの職員が移乗介助に携われるようになることで、一極集中化している負担を分散させることも可能となる。何よりも機器を適切に扱うことで、利用者・介助者双方の安全性も高められ、事故リスクの減少が期待できる。		
機器を導入することにより達成する目標(機器導入の翌年から3年間、年度毎)	○導入後(翌年)1年目 機器の構造や正しい操作方法を全職員が理解し、安全に使用することが出来る。 ○2年目 機器の使用に適する利用者またはシチュエーションを適切に検討・評価し、その時々場面・状況に応じ活用することが出来る。 ○3年目 介助者の身体的・精神的負担を軽減することで離職率を減らし、職員が少しでも長く活躍できる現場作りを目指す。		

期待される効果等	○導入後(翌年)1年目 これまで力不足や腰痛等で移乗介助に携わる機会の少なかった職員も、機器を使用した介助を実践し体感することで、苦手意識や不安を払拭し利用者に関われるようになる。また多くの職員が積極的に関わることで協同作業の意識が高められる。 ○2年目 利用者の身体的変化を早期に見出す視点を養い、適切な介助方法を職員個々が考え、創意工夫を以て業務にあたれるようになる。また、そのことが利用者の安全・安心・有益となる。 ○3年目 介助者の肉体的疲労を蓄積させないようにし、職員の健康を維持することが次なる意欲や創造性に結びつくことが期待できる。
効果検証の方法(効果に関するデータを客観的な評価指標に基づいて記録)	導入機器を用いた記録(対象利用者・介助者)を残し、その際の介助者にかかった負担度も数値化して記録する。 事業所会議等で定期的なヒアリングを行い、その効果や課題を共有化する。 身体的・精神的負担を理由とした離職・休職者を効果検証実施前年度から年度毎に記録に残し比較する。

3 事業・導入スケジュール

期間(予定)	内容	経費概要	備考
令和5年12月1日 ～令和5年12月15日	機器導入 職員の習熟及び教育・研修計画・マニュアル整備		
令和5年12月16日 ～令和6年3月31日	実際に機器を使用する者(介護職員等の意見聴取)導入によるケア方法の見直し		
令和6年4月1日 ～令和7年2月29日	効果検証の実施(1年目)		
令和7年3月1日 ～令和7年3月31日	効果検証の結果に基づいた業務改善の取り組み検討(1年目)		
令和7年4月1日 ～令和8年2月28日	効果検証の実施(2年目)		
令和8年3月1日 ～令和8年3月31日	効果検証の結果に基づいた業務改善の取り組み検討(2年目)		
令和8年4月1日 ～令和9年2月28日	効果検証の実施(3年目)		

令和9年3月1日 ～令和9年3月31日	効果検証の結果に基づいた業務改善の取り組み検討（3年目）		
------------------------	------------------------------	--	--

※スケジュール作成の留意点について

スケジュールにおける導入・活用・効果検証にあたり、実施方法、体制づくり、業務の見直し等について、以下の点を反映させること

ア業務の状況分析・問題点の洗い出し、イ機種選定・導入計画の検討、ウ導入担当者・チーム体制整備（導入・活用・効果検証の各担当者）、エ実際に機器を使用する者（介護職員等）の意見聴取、オ機器導入時期、カ職員の習熟及び教育・研修計画（マニュアル整備等）、キ導入によるケア方法の見直し予定、ク効果検証の実施、ケ効果検証の結果に基づいた業務改善の取組検討（実績報告から3年目までの取組）

2 補助事業計画書

事業名	大和メディアカル株式会社	
事業所名	ダイソービズグラウンドホーム館の木 【事業所番号:0670103860】	
介護サービスの種類	通所介護	定員数 25名
介護ロボットの製品名 通信環境整備の製品名	【製品名】 電動昇降フルリクライニングキヤリー FC-320 (ビジョンタヒラ株式会社)	
導入時期及び台数	【導入時期】 令和5年12月1日 【導入台数】 1台	
購入又はリースの別 ※該当する方に○を記入	購入	
事業概要(現在の問題点・ 導入台数の妥当性・職員と の導入意義の共有)	<p>重度の痺痺の方や関節拘縮の進行している方、その中でも大柄で体重のあるような方の移乗介助においては、用具を用いたり介助者の技術を用いてしてもその身体的負担は大きい。ベッド・車椅子間の移乗介助はもちろんだ、入浴介助時にはベッドと浴室ストレッチャー間を抱きかかえて移乗する現状から、腰痛を訴える者や、ある特定の職員に介助を限定せざるを得ない状況が生じている。</p> <p>電動昇降フルリクライニングキヤリー FC-320は座面(背面)を電動で750mmの高さまで上昇させられ、スライディングボード(シート)を併用活用することで、ベッド間・ストレッチャー間の移乗が従来の介助方法よりも負担少なく行うことが出来る。導入活用することにより、介助者の身体面・精神面での負担軽減はもちろんだこと、研修・指導を重ね多くの職員が移乗介助に携われるようになることで、一極集中化している負担を分散させることも可能となる。何よりも機器を適切に扱うことで、利用者・介助者双方の安全性も高められ、事故リスク減少に結び付くことも期待出来る。</p>	
機器を導入することにより達成する目標(機器導入の翌年から3年間、年度毎)	<p>○導入後(翌年)1年目 機器の構造や正しい操作方法を全職員が理解し、安全に使用することが出来る。</p> <p>○2年目 機器の使用に適する利用者またはシチュエーションを適切に検討・評価し、その時々々の場面・状況に応じ活用することが出来る。</p> <p>○3年目 介助者の身体的・精神的負担を軽減することで離職率を減らし、職員が少しでも長く活躍できる現場作りを目指す。</p>	

導入後(翌年)1年目	<p>これまでで力不足や腰痛等で移乗介助に携わる機会の少なかつた職員も、機器を使用した介助を実践し体感することで、苦手意識や不安を払拭し利用者と関わられるようになる。また多くの職員が積極的に関わることによって協同作業の意識を高められる。</p> <p>○2年目 利用者の身体的変化を早期に見出す視点を養い、適切な介助方法を職員個々が考え、創意工夫を以て業務にあたれるようになる。また、そのことが利用者の安全・安心・有益となる。</p> <p>○3年目 介助者の肉体的疲労を蓄積させないようにし、職員の健康を維持することが次なる意欲や創造性に結びつくことが期待できる。</p>
期待される効果等	<p>導入機器を用いた記録(対象利用者・介助者)を残し、その際の介助者にかかった負担度も数値化して記録する。</p> <p>事業所会議等で定期的なヒアリングを行い、その効果や課題を共有化する。</p> <p>身体的・精神的負担を理由とした離職・休職者を効果検証実施前年度から年度毎に記録に残し比較する。</p>
効果検証の方法(効果に関するデータを客観的な評価指標に基づいて記録)	

3 事業・導入スケジュール

期間(予定)	内容	経費概要	備考
令和5年12月1日 ～令和5年12月15日	機器導入 職員の習熟及び教育・研修計画・マニュアル整備		
令和5年12月16日 ～令和6年3月31日	実際に機器を使用する者(介護職員等の意見聴取)導入によるケア方法の見直し		
令和6年4月1日 ～令和7年2月29日	効果検証の実施(1年目)		
令和7年3月1日 ～令和7年3月31日	効果検証の結果に基づいた業務改善の取り組み検討(1年目)		
令和7年4月1日 ～令和8年2月28日	効果検証の実施(2年目)		
令和8年3月1日 ～令和8年3月31日	効果検証の結果に基づいた業務改善の取り組み検討(2年目)		
令和8年4月1日 ～令和9年2月28日	効果検証の実施(3年目)		

令和9年3月1日 ～令和9年3月31日	効果検証の結果に基づいた業務改善の取り組み検討（3年目）		
------------------------	------------------------------	--	--

※スケジュール作成の留意点について

スケジュールにおける導入・活用・効果検証にあたり、実施方法、体制づくり、業務の見直し等について、以下の点を反映させること

ア業務の状況分析・問題点の洗い出し、イ機種選定・導入計画の検討、ウ導入担当者・チーム体制整備（導入・活用・効果検証の各担当者）、エ実際に機器を使用する者（介護職員等）の意見聴取、オ機器導入時期、カ職員の習熟及び教育・研修計画（マニュアル整備等）、キ導入によるケア方法の見直し予定、ク効果検証の実施、ケ効果検証の結果に基づいた業務改善の取組検討（実績報告から3年目までの取組）